

○委員長

皆様、こんにちは。ただいまから第3回静岡県社会教育委員会を開催いたします。

本日は、お二人の委員から実践発表をいただくことになっております。よろしくお願いいたします。

また、3月末にワーキンググループを開催しまして、今後の社会教育委員会の議論の進め方等について協議をいたしました。その中で、皆様と共有させていただきたいことをまとめましたので、また後ほど報告させていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、本日は会の初めに、今期初めて御出席する委員から、御挨拶をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○委員

皆さん、こんにちは。静岡県PTA連絡協議会で会長を務めております。

私は、静岡県下の公立の小中学校のPTAの副会長2年やりまして、その後、会長を4年やっております。この会は2期目です。1期目は、この会に出て、自分自身も勉強させていただくことができる本当に素晴らしい会で、いつも県のPTA連絡協議会に持ち帰って、協議と同様の内容を議論する際に、役に立てることができた、本当に素晴らしい時間を過ごすことができました。

また、今期も皆様とたくさん議論を交わしながら、素晴らしい組織づくりをして、いい活動をしていければいいなと感じております。よろしくお願いいたします。

○委員長

こちらこそ、よろしくお願いいたします。

今日で全員の方が1回は参加して下さったことになっております。改めまして、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日の会の次第について確認いたします。

最初に、事務局から、令和5年度県社会教育課所管事業について説明をしていただきます。

続いて、第2回社会教育委員会と、3月末に開催された第1回ワーキンググループの開催結果を報告いたします。

その後、協議に入りまして、まず、本日は先ほど御紹介しましたが、二人の委員から御発表をいただきます。最後に、それらを踏まえて協議を深めていきたいと存じます。

本日も皆様から様々な御意見をいただければと思います。

委員の皆様の御協力の下に、本日も円滑に会を進めてまいりたいと存じますので、御協力のほどよろしく願いいたします。

それでは、令和5年度県社会教育課所管事業について、事務局より説明をお願いします。

○事務局

「令和5年度教育行政の基本方針と教育予算」について御説明をいたします。

静岡県は、「富国有徳の「美しいふじのくに」づくり～東京時代から静岡時代～」を県政運営の基本理念に掲げており、「有徳の人」は美しいふじのくにづくりの礎となるものです。

県教育委員会では、全ての子供たちのウェルビーイングを目指し、学校・家庭・地域の連携・協力の下、他者と協働して、新たな価値を創造する力を育成していきます。

特に、この予測困難な時代を生き抜く力を育むオンラインプラットフォームの構築等による探究的な学びの充実、医療的ケア児を含めた特別な配慮を必要とする幼児への支援や、県立夜間中学校の運営等、誰一人取り残さない教育の充実、多様な価値観を認め支え合う教職員や児童生徒の人権意識醸成の更なる推進に取り組んでまいります。

これらの取組により、個人として自立し、自他を大切に、社会や人のために貢献できる「有徳の人」を社会全体で育成していきます。

令和5年度教育行政の基本方針を受けて、社会教育課では以下3章の実現を目指し、施策の推進や事業の実施を進めてまいります。

次に、静岡県教育振興基本計画における、第1章から第3章の三つの基本方針に基づく社会教育の関連事業についてです。

第1章、「文・武・芸」三道の鼎立を目指す教育の実現に向けた取組です。ネット依存への対策や「読書県しずおか」づくり総合推進事業を実施いたします。

次に、第2章、未来を切り拓く多様な人材を育む教育の実現に向けた取組です。地域の教育力向上推進事業や次代を担う青少年育成事業等を実施します。

第3章は社会総がかりで取り組む教育の実現に向けた取組です。地域学校協働活動推進事業や社会教育関係団体育成事業、家庭教育支援事業等を実施します。

今年度の予算額はどの事業も前年度より縮減されておりますが、限られた予算の中で効果のある事業となるように尽力してまいりたいと思います。

○委員長

このことにつきまして、何か質問はございますか。

○委員

各事業はこういう内容で、これだけの金額がかかりますと書かれているわけで、これを聞いて思ったのは、それぞれの事業によって関係する青少年がいると思います。私は、掛川の美術館に行っていますので、掛川で考えると、大体1学年1,000人前後です。ですから、小中学生でいくと、9学年ですから1万人弱です。1万人の小中学生がいて、文化芸術、美術館、あるいは歴史文化にどのくらい関わるかなということを割合気にはしています。美術館に、1年に小中学生1万人来館すれば、数的には1人1回は文化施設に行った。現在、1万人に対して、6、7千人ぐらい来てると思います。

では、ここのそれぞれの事業が県下小中学生、の何人ぐらいに影響してるか、何人ぐらいの小中学生にこの事業は関わりますと。例えば、1章の(1)は全県的に配布するので、全県下対象ですとか、地域的なバランスとか方法によって関わる青少年が変わってくると思いますけど、そういう数字はあるのですか。それを教えていただきたいです。

○事務局

それぞれの事業ごとに事業形態が異なるものですから、直接、小中学生に働きかけを行っているものとそうでないものとあって、そうでないものについては、なかなか何人にといいことは言えないと思います。ちなみに、小中学生の人数ですが、令和4年5月1日現在で、小学生が18万人、中学生が9万7,000人ですので、28万人ぐらいが全県下の小中学生となるかと思います。

地域家庭班です。私たちは、携帯・スマホの使い方について、小学生、中学生に啓発をしていく活動をしておりまして、アドバイザーが各学校に出向いてスマホルール等について説明する事業をやっていますが、昨年、使い方の説明を受けた人数が出ており、人数は1万472人となっております。

青少年指導班です。ネット依存の関係で、6会場でゲーム障害とかのワークショップ等を行っており、そちらは40名程度やっております。あと、つながりキャンプという事業を、10名程度を対象に一泊二日のキャンプを3回程度やっております。

○委員

この予算をつくるときには、基礎的な配布なり、機会なりで積算されて出てきていると思います。全体的にいろいろな事業で、先ほど28万人ぐらいの小中学生がいるということですが、全部の事業が全ての小中学生に関わっていくのか、あるいは一部なのか、あるいは都市部だけなのか、少しその辺

をお聞きしたところです。あと細かいところはいいと思います。

○事務局

これだと、予算額だけわかって、効果がわからないということだと思います。

先ほど申し上げた、効果がわかりやすい何人にというものもありますが、社会教育の関係ですので、直接小中学生何人にということはなかなか言えないものもあるかと思います。指標はそれだけではないと思いますが、各事業の効果もわかるような資料を用意したいと思います。

○委員長

そのほかいかがでしょうか。

皆さん、配付された資料の中には、令和5年度教育行政の基本方針と教育予算があり、この全体像の抜粋を資料1として作ってくれているので、こちらも参考に、後日お読みいただければと思います。

私から1点。夜間中学は、ほかの課の所管になるということでもいいですかね。

○事務局

義務教育課になります。

○委員長

義務教育課で、わかりました。

そのほかいかがでしょうか。

また、何か質問等ありましたら、事務局にお願いできればと思います。

それでは、今日はこれより、次のところに移りたいと思います。

第2回社会教育委員会の開催結果について、事務局から報告をお願いします。

○事務局

第2回社会教育委員会では、次第の2で法律上、本委員会の役割であります令和5年度社会教育関係団体への補助金の交付について御意見を伺いました。

続いて、3の報告の後、4の協議をしていただきました。

協議(1)「第38期静岡県社会教育委員会の諮問について」、事務局から補足の説明し、最近10年間の静岡県社会教育委員会が考えてきた社会教育の特徴等について報告しました。

次に(2)委員発表では、「牧之原市社会教育活動から新たな社会教育へのアプローチ～社会教育活

動からウェルビーイングの実現を目指して！～」と題しまして、市町の社会教育委員の立場で実践発表をしていただきました。

その後の協議(3)では、地域における社会教育について、委員の皆様からそれぞれのお立場で御意見や取組、感想などを伺いました。委員の皆様からいただいた御意見は資料3に抜粋してまとめてあります。

○委員長

以上が報告となります。実践発表から社会教育活動がどういうものかを御紹介いただくことで、皆様には、今の県の社会教育活動の現状を少し把握していただけたかなと思います。

これを受けて、3月下旬にワーキンググループを開催いたしましたので、その報告の後に、少し皆様に私から説明をさせていただきたいと思いますので、事務局からそれも報告を先にお願ひします。

○事務局

最初にワーキンググループについて説明をいたします。第38期社会教育委員会では、学識経験者の3人にワーキンググループ委員をお願いしまして、全12回の協議の方向性や最終的な提言内容等、委員会運営に関して御意見を伺っておりますので、御承知おきください。

3月末に開催しました第1回ワーキンググループの開催結果について、その概要を報告いたします。今回は、主に第3回以降の委員会の方向性について議論していただきました。そこで話し合われた主な内容が資料4の1、2、3になっております。

1の今後の協議の方向性についてです。第2回までの委員会では、委員の皆様から、それぞれのお立場でいろいろな御意見をいただきました。今後さらに御意見を伺うために、ワーキンググループで話し合いまして、これからの協議の方向性を共有したほうがいいのではということになりました。その方向性が、最初に書かれています二つになります。

一つ目が、諮問内容の「新しい時代」と「ウェルビーイングの実現」のイメージ(目的)を共有。

二つ目、県民が新しい時代においてウェルビーイングを実現するため、社会教育(手段)の検討をすることになります。

現時点では、この二つを協議の方向性として委員の皆様と共有させていただければということで、ワーキンググループ委員の皆様から御意見をいただきました。

次に2のこれからの委員会で意識したい点についてです。1点目、上記の二つは、最終的に委員会でまとめたいポイントにもなっております。ですので、今後の協議や委員発表をしていただくときには、これらを意識して、進めていくことを意識していただければと思います。

続いて、実践発表を行う場合、現在取り組んでいる実践内容の報告と、様々なことが変化している社会の中で、この先の時代、どういう方向を目指して、その発表された取組を進めていくのか。その際の期待や不安は何なのか。こういうことについて、可能ならば御意見を伺いたいと考えております。

最後の3は、会議の中で挙げられたワーキンググループ委員の意見で、大きく三つまとめさせていただきました。それぞれの詳細は紹介を割愛させていただきますが、変化はチャンス、デジタル社会における社会教育、さらには、県民性を生かす、というような御意見をいただきました。

先日のワーキンググループはこのようなお話し合いをしていただきましたので、事務局から報告させていただきます。

○委員長

補足をワーキンググループの委員からさせてもらいたいと思います。

○委員

補足するところはありません。このように、具体的に進めていければいいと思います。

○委員長

もともと社会教育委員の皆さんは、一人一人が県から委嘱を受けているので、一人一人で教育委員会に対して意見を述べる、聞かれたら答えるというお立場ではいらっしゃるわけですが、その委員の人たちが集まって会議をして、諮問に対して報告書を作っていきます。それを一つの活動として協議していただいているわけです。報告書を出すに当たっては、最大公約数ではありますが、一応まとめたものは出したいと委員長としては考えております。

ただ、ほかの会議と違うのは、ある一つのことに多数決まで取って、意見をフィックスして出すわけではなく、先ほども最大公約数と言いましたが、おおむねこういう意見があって、ただ、こういう意見もありますという報告書のまとめ方はしていきたいと思っております。

でも、諮問について議論をした結果として、いろいろな意見がありましたとまとめていきたいと思っておりますが、そのことについて、あまりに向いている方向が違ったことをただ書き連ねたのでは、合計12回委員会の協議をした成果にならないと思います。議論の方向性と報告書に出していくものを、少し焦点を当てたいなということで、この2点がどうだろうとなりました。もちろん、今後の皆さんの御意見の中で、このイメージなり検討はしていくことにしたいと思っておりますので、私の一存で方向性を決めるとかそういうことではございませんが、皆様でそういうことを意識していきたいということになります。

ですので、実践発表においても、御自身の活動の場の状況を御発表いただくわけですが、難しいところもあるかと思いますが、この方向性を意識していただけたら、ありがたいなと思っております。また、ウェルビーイングのイメージが、ちょっと私自身も難しいなと思っているところがあるので、そこなど皆様のお知恵を拝借して、共有できたらと思っております。

資料の3にいろいろ羅列しているところが、ワーキンググループでいろいろ意見が出て、それをおおむね要約するとこのような感じだったということです。

D Xと呼ばれるように、それだけではありませんが、かなり時代がドラスティックに変わっていく中で、この新しい時代の社会教育をどう考えたらいいのかについて、やはり前向きに捉えていきたいということで、この1と2があります。

それから、私自身、静岡に生まれ育った人間なので、静岡の県民性は重々承知していますが、ちょっと辛口で言えば、静岡県民、あまり変化に強い人間ではないと思います。いろいろ考えていく中では、どちらかという課題を書き連ねて、終わってしまうみたいになってしまいがちですけど、ワーキンググループ委員に静岡県外の人もいらして、静岡県人にもいいところがあると言ってきて、私はその時間に、そうか、希望を持って生きていけばいいんだとすごく思いました。それが、明朗なところとかしなやかさがあるということですが、この良さを生かすという考えで、新しい時代の社会教育の在り方を考えたらいいのではないかという話になりました。

変化はチャンスと書きましたが、その変化の状況は、現実的には何かをやったときの問題として出てくるわけです。いいイメージで出てくるわけではないです。そうなると、どうしても困ったという気持ちが先に立って、何でそうなんだ、誰が悪いんだというネガティブな議論に行きがちかと思えます。そこを変化はチャンス、本当にそうは言っても、どんどん変わっていく時代なので、そこで私たちならば何ができるのかという強みを見つけ出して、それで取り組むのであれば、何ができるのかという前向きな考え方で進んでいきたいなと考えております。

それはどういうことなのかと、また言われるかもしれませんが、私もこの委員会の中での皆様への投げかけでは、決して限定することなく、どちらかという発散的な思考で、いろいろなアイデアを、お考えを忌憚なく出していただくことに徹して、委員会は進めさせていただきたいと思えます。ぜひ遠慮なく、それぞれのお立場で御意見をいただければと思っております。今後も御協力のほど、よろしく願いいたします。

何かこの点について、質問とかありましたらいかがでしょうか。また、皆様御意見、御発言する中で、委員長の言ってること、何かというのがあれば、御指摘いただければと思えます。よろしく願いいたします。

今日は2人の方に御発表を準備していただきましたので、これより協議に入りまして、そちらの発表に移りたいと思います。

最初は、お勤めになられている、県立高校で実践されている総合的な探究の時間の取組について御発表いただきます。それでは、御発表よろしくお願いたします。

○委員

本校の駿河総合高校の取組を中心にお話をさせていただきます。

まず、「地域連携により探究的な学習を実現する」とタイトルをつけました。総合的な探究の時間だけでなく、探究的な学習全般について、高等学校の現在の状況を御紹介したいと思っています。

学校紹介になりますが、本校、駿河総合高等学校は一学年6クラスの規模で、生徒は全校でおよそ720人になります。ユネスコスクールに加盟しておりまして、人権・平和・環境への意識を高く持つ教育を心がけております。

校舎内には静岡北特別支援学校南の丘分校が併設されておりまして、本校の生徒、南の丘分校の2校の生徒たちは、共生・共育の取組の中で互いに理解を深めております。

また、生徒の進路先については、大学、専門学校、就職など進路は多岐にわたっておりまして、様々な進路実現が可能な学校となっています。

学校として大切にしたいと思っているのは、一人一人の生徒が自分のよさや可能性を認識すること、そして多様な人々と協働しながら持続可能な社会の創り手であることを意識できることです。

総合学科という学科は聞き慣れない言葉かもしれませんが、第三の学科といわれ、普通科、専門科で設置される全ての教科・科目を生徒は選択して学ぶことができる学科です。現在、県内には総合学科が10校あります。全国的にも他県も同じような割合で設置されております。

総合学科の高校は、入学してから自分の進路を決定していくカリキュラムが念入りに組み立てられております。本校は1年生の間に、こちらに掲げた6つの系列のどの系列に軸足を置くかを1年のうちに決めていきます。

本日、お伝えする探究的な学びに重要なのは、地域・社会と連携した学びです。探究的な学習とは、様々な事象や物事の中から課題を見出し、情報を収集し、整理、分析した上でそれらを実行して、そして振り返ってまた次の問題発見、解決につなげていく、その流れを繰り返していく学習です。

この学習については、あらゆる教科・科目で重要なこととなりますが、特に産業社会と人間、これは総合学科が必修科目となっておりますが、産業社会と人間、そして小中高と続けて学んできている総合的な探究の時間などの科目で地域の方々に連携していただくことで、学校の学習が社会とつなが

っていることを実感して、生徒の将来に生きるものになっています。

本校の総合的な探究の時間では、高校3年間を見通して、生徒に身につけさせたい資質、能力を定めています。それぞれの学年の下に書きましたが、1年生では、メタ認知、傾聴力など。2年生では、情報収集分析力、課題発見力など。3年生は、探究の集大成となるように資質、能力を定めております。

特に本校の2年次では、1年間かけて大きなプロジェクトを組んで探究しております。学校内だけのフィールドでは収まらずに、地域にある多くの組織や団体の力をお借りしています。

2年次の総合的な探究の時間について、具体的に御説明いたします。

防災を切り口に、地域課題について探究していくという、地域防災コミュニティプロジェクトを立ち上げまして、自分が関心あるテーマを生徒は一人一人選んで、同じテーマの人たちと生徒たち4人で一つのグループをつくって、グループごと課題の発見解決を通して、目的としては、地域コミュニティをつくり出すためということで探究活動を行っております。

令和4年度に御協力いただいたのは11の団体です。こちらを全て挙げてありますが、自治体、民間企業、女性支援団体、外国人支援団体、高齢者施設、保育施設などと連携をしていただくことで、生徒の防災に対する課題意識もより鮮明に、多様なものになっていきました。

高大連携事業も活用して、静岡大学教育学部の藤井先生のゼミの皆様にも1年間通して関わっていただき、生徒の相談やアドバイス、様々なことについての探究活動を伴走していただきました。

このプロジェクトの狙いとしては、ここに掲げた4点になります。

まず、市民性を育むこと、二つ目として、実際に地域貢献活動を行うこと。三つ目は、コミュニティの形成・醸成を推進すること。四つ目として、これからの社会に必要な力を身につけることとしています。

プロジェクトの1年間の流れになります。

生徒は年度前半に各連携先を訪問して情報収集を行い、その後、自分たちなりに課題を発見して解決策を探り、最終的には連携先に解決の糸口となる提案をいたしました。

まず、その流れを写真で御覧ください。

最初に、学校周辺の防災体制がどうなっているのかを知るために、静岡市の方に、3回に分けて講義をしていただきました。内容はこちらに掲げたとおりです。

6月にはそれぞれのフィールド先にグループごと訪問して、具体的な防災について学びました。こちらでも連携先にいろいろ御協力いただいて、様々な学びがありました。

こちらは中部電力さん、静岡女性会館の皆さんに御協力いただいたところですが、一つの防災というテーマでも切り口は様々になっています。

次のスライドは、総合的な探究の時間の担当教員は予算を考えながら、今年度も様々な連携先をお願いしています。

もう一つのスライドですが、連携先の方々はお忙しい中にもかかわらず、生徒が課題を発見できるような多くの体験や情報を提供してくださいました。

7月になって、情報収集した内容の中から解決すべき課題を自分たちなりに企画書にまとめ、7月には校内で発表する機会を持ちました。その後、その企画書の内容を各連携先で実践したり、発表したりする機会を10月頃からいただき、自分たちの思いをさらに深めることができました。

各グループの取組の幾つかを御紹介します。今、スライドで御覧いただいているこのグループは、「するそうカフェ」という名前をつけて、自治体の方々に呼びかけて公民館でカフェを開き、災害時に役立つ新聞スリッパ作りなど、これだけでなく、いろいろな活動を行いました。

次のスライドの外国人の課題解決をテーマとしたグループは、静岡ムスリム教会の子供たちに災害時にどうやって自分の身を守ったらいいか、遊びを形にして提案しました。

次のスライド、この班は非常時に情報が届きにくい外国の方々に向けて、災害時の避難方法をいち早く伝える手段として、SNSのインスタグラムを使って提案をいたしました。

次のスライド、災害時のライフラインの課題を取り上げた工業系のグループは、自分たちで停電アプリを開発し、静岡駅前の地下道で宣伝をしたり、テレビで活用を呼びかけるための取材もしていただいたりしました。

11月になると、校内で活動報告と仮説の検証を行うため、今度は連携先の方々に御来校いただき、直接、御意見を伺うことができました。この中で、さらに活動の改善の視点を得ることができました。

こうした探究的なプロジェクトの実施により、生徒たちは、自分は地域で暮らす一員であるという意識が高まったように思います。今年の2月に起きたトルコ・シリア大地震の際には、活動を通して関わった方々の故郷を支援するため、募金活動を行って、教会に寄附を申し出るなど、積極的に活動をする様子が見られました。

プロジェクトの狙いの一つでもある、市民性の育成、社会貢献の意識はしっかりと育まれているように感じています。

そして、総合的な探究を2年次のプロジェクトで、大きなプロジェクトを終えて、3年次になりますと、今度は総合的な探究の時間だけでなく、各教科において探究的な科目を履修するようになります。ここに掲げた科目、①現代社会探究、②商業科の科目になりますが、商品開発などでは、教科書の知識を机上で得るだけでなく、実際の社会を想定しながら自分で課題を発見し、それを解決する過程で、科目の知識や技能、思考力、判断力を得ることにつながっています。

一つ目の現代社会探究では、年度の最後にグループに分かれて探究活動を行いました。3人の野球

部の生徒たちのグループは、現代社会の課題として、世代間の分断や健康問題を取り上げました。その解決のため、スポーツを通じて世代間交流や地域コミュニティの活性化をする運動習慣の改善などを計画しました。

スポーツの種類は、彼らが履修する別の科目ですが、スポーツ概論という科目を履修しております。その科目の中で併設する南の丘分校の生徒さんたちから、ボッチャの競技を教えていただく機会がありました。その経験から、高齢者や障害者も共にできるスポーツとして、ボッチャにしようと思ったそうです。静岡市ボッチャ大会までは実施できませんでしたが、地域の体育館を実際に予約して、自分たち高校生はできるだけ多く集めてプレ大会を行い、その計画の検証まで行っていました。

二つ目の商品開発の事業です。これは市場の仕組みや販売について学習した後、担当教員は静岡の伝統工芸である地元の駿河下駄の職人さんを授業にお招きして、実際の下駄を見せていただいたり、販売、制作についてお話を伺ったり、伝統工芸を継承していくことの難しさも知ることができました。その後、科目の目標でもある販売促進を目指して、生徒がデザインを考案し、職人さんに提案したものが、実際にこの写真のように商品になりました。この駿河下駄は、今年の夏頃実際に販売をされる予定だそうです。

御覧いただいたこれらの学習は、本校のスクールミッション達成にもつながっています。具体的に読み上げはしませんが、こうしたスクールミッションにかなうような探究の学習が、今、学校の中で進んでおります。

そして、今年度から本校は学校運営協議会を設置するよう申請をいたしまして、コミュニティスクールとして地域・社会の方々からの御意見を、さらに学校運営に反映させていきたいと考えています。

最後に、生徒の意識を知ることができるものとして、各学年に年度末に実施した45項目の総合的な探究の時間のアンケート結果の一部をお伝えします。

まずは「異なる立場や考えを受け入れ、理解しようと思う」、「人や生き物の生命を守り、共に生きようと思う」。これらの項目はどの学年も肯定的な回答が多く見られました。ここには他者への関心や多様性を尊重する気持ちが表れていると感じています。

次のスライドの、「自分は、地域や社会から必要とされていると思う」、「自分の考えに責任を持ち、自分がすべきことを決定できる」という項目については、高くはありませんが、3年生のほうがやや肯定的回答率が高くなっていると読み取っています。

この結果から、自己肯定感を持てたり、自分のよさや可能性を認識できている。こうした学習を続けていくことが重要なんだろうと私たちは考えています。

3枚目のスライドですが、「地域社会の一員として、自分にできることはないかと考えたことがある」、「社会や地域の課題解決に向け、主体的に活動したいと思う」。これらの項目についても、3

年生のほうがやや肯定的回答率が高くなっています。学校での学習が、社会の複雑な課題解決につながっているという気付きがあるのではないかと私たちは期待しております。

コロナ禍からの回復期にある今、学校ではこれまで当たり前だと思っていたことの意味を見直す機会が幾つかあります。先日、4年ぶりに全校生徒が体育館に集まって校歌練習をすることができました。これまで歌を歌ってはいけないとか、人との距離を置かなくてはならないなどがありまして、現在の3年生は校歌を歌う機会を全く持てずにここまで来ました。そんな生徒たちが慣れないながら、学年ごとに声を出して歌っていったところ、思わぬことに、歌い終わるたびに他の学年から自然に拍手が起こって、今まで校歌練習で拍手が起こることはなかったんですが、その姿を見て胸に迫るものがありました。

教職員は生徒の将来の幸せのために日々奮闘しています。変化が激しく、先行きに不安が多い現在、生徒たちにとって学校で仲間と共に学ぶことが自分や相手の幸せ、平和な社会を育むためのものであると実感してほしいと思っています。そのためにも、地域や社会と連携できる環境を大事にしていきたいと思っています。

○委員長

それでは、発表の中で気になった点とか、わからなかった点ありましたら、いくつか御質問受け付けたいと思いますがいかがでしょうか。

○委員

学校紹介の中で、生徒さんが720人いるという説明でしたけど、男女の内訳と、広い範囲から通ってくるとは思いますが、市内の方、市外からの子、内訳がわかりましたら教えてください。

○委員

正確なところをここでお伝え出来ないのですが、学年によって男女比率がかなり違ってまして、今度の1年生はかなり女子生徒が高く、今の3年次はかなり男子生徒が高い、年度によってかなり違いはあります。ただ、半々よりは、やや6割、4割という差で進んでおります。

地域においても、静岡地区が中心にはなりますが、西は志太榛原、吉田町辺りから、浜岡から来ている生徒もいます。東は富士辺りからも通学しております。

○委員長

そのほかいかがでしょうか。

○委員

少し確認させていただきたいのが、この学校での地域連携の取組は、市からある程度働きかけがあって取り組んでいるものなのか、学校独自で地域へ出ていこうという考えで取り組んでいるのか、きっかけを教えてください。

○委員

今、御紹介した2年次の取組は、初めて行われたものです。こちらから連携先は依頼して探っているところで、先方から呼びかけられてというよりは、こちらからお願いしている状況です。

○委員

ありがとうございます。

○委員長

そのほかいかがでしょうか。

○委員

大変すばらしい発表、ありがとうございました。

子供たちも高校に入学してから3年間の間に、非常に自己肯定感を持ち、学校の方針に従ってかなり成長している様子がうかがえたと思います。

私が1点、教えてほしいのは、子供たちを育成するための企画というか仕掛けを、それはどなたがやっているのか、その辺を教えてください。

○委員

本校は総合学科とお伝えしましたが、総合学科という学科は、見ていただいたとおり、普通科、専門科の教員が全てそろった学校になっておりまして、特に総合学科企画課という分掌の一つが中心になって、こうした探究活動を進めております。どこと連携しようかということ企画するのは、総合学科企画課になっております。

これは私の印象ですが、総合学科の中の専門科の教員は産業系の方になりまして、産業を中心とした専門科の教員は連携が上手なんです。いろいろな意味で、先ほどの商業のつながりとか、工業でも外に出るような機会が多くありますので、それらの教員が中心になっているところも本校ではあると感じています。

○委員長

よろしいでしょうか。

○委員

この学校に入ってくる生徒について、生徒全員で720名と伺いましたけど、自分が将来、自分で探究できるような大人になりたいという意識を持って入ってくる生徒が大部分ですか。それとも、これは言い方が失礼かもしれませんが、ちょっとわからないですが、学校に入っている間に、授業とかこういう体験をやられて、その間に成長して行って、社会と関連性のある生徒に育っていく子供が多いのか、その辺がもしわかったら教えてください。

○委員

これも印象的な部分ですが、総合学科に入ってくる生徒は、将来の進路先をまだ決定しかねないで入ってくる生徒が多いです。普通科の進学は、恐らく大学進学とか、そういうものを目指す生徒が多いんじゃないか。それから、専門科に行く生徒は、工業、商業、農業といった、これをやると決めた生徒が多い。

その中で、総合学科はある程度、まだそこではモラトリアムの状態のまま入ってきて、高校1年でその進路先を決めるという仕組みがありまして、そういう意味ではがっちり決めて入って、探究やろうというよりは、入ってみたらこういうカリキュラムになっていたことが多いのではないかなと思います。

○委員

ありがとうございました。

○委員長

よろしいでしょうか。御意見もあるかと思いますが、後で協議の中でまた伺いたいと思います。御発表ありがとうございました。

次に、裾野市の小学校でスクールコーディネーターをお務めになられている委員から、そこで実践されている学校を核とした地域の取組について御発表をいただきます。

それでは、よろしく願いいたします。

○委員

裾野市立南小学校スクールコーディネーター、CSディレクターをしております。よろしくお願いいたします。

こちらの写真は、裾野市立南小学校、道路添いから写したところです。

南小学校の位置です。静岡県の裾野市。南小学校は、黄色いところが裾野市ですが、一番下のちょっと出っ張ったところ、最南端にあって、校区はそれほど広くありません。三つの区から子供たちが通っております。

南小学校ですが、2006年にできた18年目の学校です。この資料を送ったときは3月末ですから、最後が2022年になっておりますが、2023年、18年目の学校。学級数は12、1学年2クラス、児童数約250、200近くの家庭の子供たちがこちらに通っています。

私の長男がここの学校の第1回入学生で、そこから保護者としてPTA活動に関わらせていただいて、平成23年度にPTA会長を務めた後、前任から指名されまして、今、コーディネーター12年目になりました。学校と一緒に、親としても成長させていただいたこの18年になっております。

南小学校の活動を紹介する上で欠かせないのが、地域学校協働本部、地域の応援団の皆さんであります「夢と輝きの教育推進会」があるのですが、こちらを紹介しないと、皆さん御理解がこの後いただけないのかなというところがありますので、ここを話させてください。

「夢と輝きの教育推進会」は年4回開催をされております。この会にどのような方々が出席するかといいますと、地域代表、保護者代表、学校代表、およそ50人程度が参加する会議体です。

南小に子供を通わせている保護者に行政職員がいますので、そういった方にも出席していただきました。それに加えて、生涯学習課にも、課長のところに何度も説明に行きまして、2年ほど前から社会教育担当の主幹にも出席していただいております。必要に応じて安全担当など、学校の担当の先生が出席して下さることもあります。

また、この会、開催される推進会のうち、第2回目については子供参加型の会議体になっております。そして、これをファシリテーション、コーディネートするのがこの会での私の役目です。学校から、今回はこんなことを話せたらいいな、皆さんとこんなことを共有したいなとお話をいただいて、それを基にして会議を進行していきます。どのようなことを話し合っていくのかといいますと、まず第1回目の会議で行うのが、学校の運営方針・教育方針を毎年、校長先生に発表していただいております。

その上で、我々地域、私、今日は地域住民として発表しておりますので、地域は地域の子供たちをどう育ててほしいと願っているのか、その辺りも話し合いながら、各々の立場の方が自分の立場でできることを話して共有し、協議していきます。2回目以降も、それぞれ学校の活動、子供たちの

様子、地域の様子など途中経過を確認しながら、都度都度の課題も共有して、学校と子供たちの応援をしていきます。

この会、学校だけでなく、地域の課題も含めて、私、情報交換をしながら協議をしているので、地域の方にとってもメリットがあることではないかなと思っています。具体的には、プリントにあるようなことも話していったりしています。

こちら令和4年度、昨年度の第2回目の子供参加型の会議の様子です。自分たちが1年を通してどんなことを学んでいきたいのか、地域の方に話をしながら必要なことを聞いていきます。総合の時間にこれが活用されていきます。この場だけではなくて、自分たちで、その後、ここでつながった地域の方たちに自分で学校からアポ取りの電話をかけて、休日ですとか放課後に質問しに行く子たちもいます。

また、この会は保護者アンケート、また児童のアンケート、そういったところから出た意見を基に実際に実施している授業について、一部ですが、この後、紹介をさせていただきたいと思います。

地域や保護者、子供たち、それから先生方それぞれから地域の方との交流の場がもっと欲しいという意見を基に実施されている事業です。この後、お話しさせていただくものほとんどが、学校の終わった放課後や土曜日とか日曜日の事業で、運営は地域が行っています。運営に先生方は基本的には関わりません、携わりません。実施場所が学校というだけです。希望した子供たちや保護者、地域の方が自由に参加できる取組になります。

こちらは漢字検定チャレンジクラブです。地域の方、保護者、子供たち希望者が放課後に勉強をします。たまたま同じ席になったおじいさんに、「どんなふうにもいつも勉強してるの?」と言ってノートを見せてもらったり、「これはとめ?はらい?」とおばあさんが辞書を引いていると、「何?おばあさん、なかなか目が見えないの?」と言って、子供たちが辞書を見て、「これはとめだよ」とか「はらいだよ」と言っていたり、辞書を上手に使えない子がいると、シニアさんたちが、こうやって引くんだよなんて教えたりする場になっています。

同じ目標に向かって一緒に学ぶ場です。参考書とかコピー用紙代は私のほうで補助金を取っていますので、参加者が自分で出すお金は検定料だけです。この後、紹介するものも、全てお金はかからない事業になっています。

子供が6級を勉強していて、シニアさんが7級を勉強していたり、6年生より4年生が上の級にチャレンジしていたり、2級の勉強をしている大学生を尊敬のまなざしで見っていたり、それぞれが誰かと比べることなく、自分の目標に向かってできるところがすてきな活動だなと思っています。

活動当初、4年ほど前、当初の参加は40名程度だったのですが、現在では口コミで100人近くまで参加者が増えています。また、大人は大体3級まで取ると、2級までいくとなかなか難しく、それ

以上を取る方はあまりいなくて、もう無理だよと言って。2級ぐらいまで取ると、この場のよさを感じて、参加者側ではなく、サポート側に回ってくれるようになっております。少しずつですが、サポートも増えていっている取組です。

この実績が認められて、令和3年度の漢字検定協会の冊子とホームページに活動事例として掲載していただくことになりました。

左側の写真の白髪のおじいさん、今年70歳になるおじいさんです。当日も、昨年度が、漢字検定本番、一番下の子が6歳、一番上のおじいさんが76歳だったので、その差70歳。70歳差が両隣で同じ8級を受ける、なかなか面白い図がありました。

右側が試験当日の様子です。受験当日は南小の子だけじゃなくて、南小の子が進学する西中学校にも募集をかけておりますので、中学校の子も一緒に受験をしました。一昨年までは、大学生、オンライン授業で自宅にいる子がとても多かったものですから、そういった大学生にも声をかけて、一緒に勉強して受験に挑むなんてこともありました。

この会場にしている会議室ですが、選挙のときや災害時に地域が利用できるように、防災扉で校舎と分離できるような構造になっておりますので、土日でも地域の主導で使用できるような仕組みをつくっております。

この会議室の机や椅子のセッティングは、4年生の掃除当番がしてくれるんですけども、漢字検定チャンレジクラブを開催したばかりの頃、こんな場面がありました。椅子と机を並べている子に、ほうき係の子が、「残っている机と椅子が並べられるから、もっと詰めて並べようよ」と声をかけました。机と椅子並べている子は、空けたかったんです。机と椅子の間を。何でって、「だって、漢チャレには杖をついたおじいさんが来るんだよ、狭かったら歩きにくいよ」と言ったそうです。

今の場面は4年前の場面ですけど、これ以外にも「出入り口のところに椅子があったほうが、おじいさんおばあさん帰るときに靴が履きやすいよ」と言ってくださって、急遽、私、ソファを手配して、要らなくなったソファを玄関口に置いたりとか、「靴べらもあったほうがいいんじゃない」と子供たちから、「ああ、そうだね」と言って置いたりとか、結構、子供たち、しっかりいろいろな人の背中を見てるんだなと、そんな場面がたくさんあります。

地域の方の背中を見てほしいとか、一緒に活動したいとか、そんな単純な気持ちから始まった活動だったんですが、他者を思いやる気持ちまで育っていたんだなと感じた場面です。学ぼうとして意識しなかったことまで、自然と身についていくのが、こういったところで身につくんじゃないかなと感じました。

こちらはオセロ教室です。地域のシニアクラブの方で、裾野市のシニアクラブオセロ大会で、左側の写真の帽子をかぶったおばあさんです。優勝した方がいて、世代を超えてオセロが楽しみたいのよ

と言った一言から始まった取組です。

おばあさんの手元に小さい四角い紙があると思います。これ名札です。対戦相手を名前と呼べるように、それぞれ名札を持って次の対戦のときには移動していきます。この中には独り暮らしをされているシニアさんもいます。初めはこの帽子をかぶったシニアのお友達に誘われて、断り切れずに参加したんですが、今では会場に一番に到着して、準備をしてくれるおばあさんになりました。どうしてかなと聞いていたら、自分のお孫さんには年2回しか会えないそうです。夏と冬しか会えないと。でも、ここに来ると孫と会っているようで楽しいんだよと言ってきて、地域には、私にはたくさんの孫がいるんだと喜んでくれています。

その方、畑をやっているんですが、以前は朝早くと夕方に畑仕事してたんですけども、最近はお孫さんたちの登下校に合わせて畑仕事をしてきて、時には挨拶を交わして、仲良くなった子に野菜をプレゼントするというところもあるそうです。その方、どこかサロンへ出かけるときは、友達の車に乗せてもらわなければ参加ができずにいたので、参加したくても、行きたいと言えなかったんですけど、地域の学校なので徒歩で参加することができるというのがうれしいんだとお話をされていました。

この手前の男性ですが、子供相手でも絶対に手加減しないおじいさんです。この方、昨年12月まで現役で働いてらっしゃったので、ここに参加するために有休を使ってきてくれました。

会の最初にやったときに、1年生の女の子がこのおじいさんのところに行ったのです。本当に手加減しないので、ああというぐらい白と黒はつきり分かれてしまって、その女の子も次のとき、来ないのではないかなとあって、正直はらはらしてたんですけど、次のときに来て、真っ先にこのおじいさん目がけて行きました。練習してきたからと言って。相当悔しかったんでしょうね。

後日、その子のお父さんにごみ出しのときに会って聞いたら、毎日家でオセロをやっている。テレビゲームを一切しなくなった。奥さんの御両親が時々手伝いに来てくださるそうですけれども、奥さんの御両親も巻き込んでオセロ大会をやっていて、今、本当にランキングをつけたら上位になるような子になっています。とても楽しそうにこのおじいさんも、「どんどん強くなるな、もっと練習してこなきゃな」なんて言って、この女の子とお話をしていたのが印象的でした。

これは休日、土曜日です。卓球部の活動があります。南小の子供だけではなくて、南小を卒業した中学生、高校生、そして卒業した保護者も練習のお手伝いに来てくれます。どの活動も基本的には学校の先生は介入しません。それぞれキャプテンがいて、キャプテンを中心に活動しながら取組を進めていっています。

実は、この卓球部のキャプテンは、南小学校でも勤務していた先生です。御退職された後に、やっぱり、南小にもう一回関わりたいんだと言って、卓球部をやりたいけど、どうかなと言っていただいて、やることになりました。元中学校の先生で、校長先生を務められて、それでもまた卓球熱を再燃

したいと言って、やったださっています。地域の方も退職して、ほかの学校を転々として退職したのに、更にまたうちの地域の学校に来てほしいと思ってるなんてうれしいねと言って、大歓迎で皆さん盛り上がっています。

これ、シニアクラブさんなど、いろいろ写真があるんですが、左上は地域でアトリエを開いている方が、貯蔵している絵画を毎月入れ替えてくれています。移動美術館なんて呼んでいます。右側、地域の方が学校の畑をトラクターで耕してくれたり、いろいろな学校でこんなことはされていると思います。左下の写真です、毎週火曜日、シニアクラブさんが輪投げですとか盆踊りですとか、練習を校舎内の空いている教室を使ってやってもらっています。活動は午後1時からとってもらっています。

何で午後1時かという、1時前後って小学校は昼休みです。子供たちがふらっと行って、一緒に輪投げの練習をしたり、高学年になると総合の授業で知りたいことなんかを、「練習中に失礼します」って、授業で地域のことを学んでるので教えてもらえますかと言って、訪ねていくこともあります。この間も1年生の男の子とか女の子がふらふら入っていってました。なかなか授業中、じっと座ってられない子であったり、上手に新しい年度に適応できずに困っているなど思っていた子も、ふらりと入って、おじいさんおばあさんと輪投げをしながら気持ちを整えて、また教室に戻っていく姿もあります。

これが昨年度。地域の方にもっと南小に来ていただく機会を増やしたくて、南小学校を会場とした地域の文化祭を行いました。学校内の校舎内に地域の方や子供たち、先生方の趣味のパッチワークとか油絵、書ですとかトールペイント、消しゴム判子、つるし雛、手芸とか展示をしました。

それ以外にお昼休みの時間を使って、地域の方の踊りとかお琴の演奏をしたり、子供たちが日頃習っているバイオリンとかピアノとかダンスとか手品とかけん玉を披露した子たちもいました。

こんな感じです。校舎内のあちこちに展示をしていました。展示をしていたのは3週間だったのですが、誰でも校舎内を歩いて作品を見ることができるようにしたので、多くの方に来校していただき、大盛況のうちに幕を閉じました。本年度も実施する予定で、今計画を進めています。休み時間には作品を見に来た地域の方と子供たちが一緒に作品を見て、お互いの感想を話している場面もありました。これも作品です。

先ほど、お琴の演奏などお昼休みのステージの部の話をしたのですが、ステージの部がきっかけで、地域の方に音楽の先生になっていただいて、お琴の取組が行われました。4年生の子供たち全員にお琴を弾かせてくれて、全員が「さくらさくら」を弾けるようになりました。

たくさん見たと思うんですけど、つるし雛があちこち飾ってあったんです。それを子供たちがとてもかわいがってくれていたのが、昼休みにつるし雛を作る教室でもやってみようかといって、10人前後ぐらい参加してくれたらうれしいかなといって募集をかけたなら、全校の半分が参加してくれること

になりまして、こっちも急いで地域ボランティアさんと保護者ボランティアさんを募集して、希望した全員が自宅用と学校展示用のフクロウを完成させて、現在も校舎内にいろいろなところに飾っています。同じ型紙を使って作ったんですけど、どれ一つ同じ物がなくて、目が離れてたり、太ってたり、細かったり、目が右と左とどっか行っちゃってたりとか、すごいかわいいフクロウができて、私たちも見ていてほっこりします。

こちらは1月に開催された事業で、かるんぷ大会。かるんぷって何ぞやということなんですけど、地域の方が考案したかるたとトランプと神経衰弱が1枚になったカードですけど、それを使ってかるた大会をしました。シニアクラブさん、子供、保護者、80名ほどの希望者が、かるんぷ大会を楽しんだ後、講談師さんに来ていただいて、張扇を作るワークショップを行って、代表の子が高座に上がって、講談の口調で自己紹介を行ったり、その後、講談を聞いたんですけども、講談の中で講談師さんの合図で、みんなで張扇をたたき体験型講談をしました。当日参加できなかった子もいたものから、張扇の作り方とかは動画を作成してホームページから見られるようにしました。

左下のみんなが頭に手を置いている写真は、最後の1枚を取る直前の写真です。みんなに、大人も子供も手加減なしで平等だよという話をしたんです。最後の1枚になったら、子供どんどん前に出ていくんです。カードの上に手を置いたりして。このシニアさんが、そんな不公平なことあるものかと言って、全員頭に手を置けと言ったときのショットです。この後、どのグループでも最後の1枚が手を頭に置いて、みんな平等に戦うという姿が見られました。

シニアクラブさんは、毎月第2火曜日に校門周辺の草刈りをしに来てくれます。草取りの後には世間話に花が咲きます。時には校歌を覚えた1年生がシニアクラブの方に校歌を歌って聞いてもらったり、6年生が家庭科で学んだ技術を使ってお茶を入れてくれたり、ミシンでハンカチを作ってくれたり、おもてなしをすることもあります。

ここに、PTAを代表しダディーズが地域への恩返しとあるんですけど、ダディーズって父親部です。おやじの会と言われるものです。

プール清掃もダディーズと地域の方、あと6年生の希望者が集まって土曜日に行います。地域に塗装業を営んでいる方がいて、業務用の高圧洗浄機を持ってきてくれるので、わっと一遍にやって、あと、みんなで仕上げをするような感じ。6年生にとってみたら水遊びみたいな感じですけど、そんなことをします。校内で使用してる掲示板の足が壊れたよと聞くと、大工さんを中心にダディーズメンバーが応援してくれて、来られる人が来られるときに来て、みんなで直してくれることもあります。

多くの方が学校へ出入りするため、気づいたことがすぐ実行に移せます。これは令和3年度の様子です。グラウンドに設置されているベンチと階段の修復作業ですけど、ついでに外の水道が密にならないように、外水道の前に足形をつけてくれました。こういった活動のときに、縁の下の力持ちとし

て協力してくれるのも父親部、ダディーズです。年に数回、地域の方と一緒に作業をしてくれたりもします。

地域には月光仮面のような方がたくさんいて、いつの間にか草刈りがされていたり、壊れた物が直っていることはよくあることです。令和2年度、ある区長さんから、安定的に草刈りできるようにしておいたらいいんじゃないのという提案をいただいたので、私から学校に提案して、三つの地区と協議を諮って、三つの区があるので、三つの区で定期的に草刈りができるように一つの区が年に1回、それ以外にほかの諸団体さんも草刈りをやってくれることになっているので、その調整を図って、1か月半から2か月に一遍は草刈りを学校の中をしてくれるようになっております。

役割は限りなくとって、地域の方、たくさんいろいろなことしてくれます。地域の方が畑で育てていた野菜が花を咲かせたよと。今の子って、きっと野菜の花を知らないんじゃないと言って連絡をいただいたので、地域の方と私で野菜の花クイズを作って、昇降口に置かせてもらいました。

左下のほう、後ろ、先生方が普通に座ってらっしゃると思うんですけど、地域の方が職員室に入って何かやってるとするのは当たり前の光景なので、誰も何も見向きはしません。ああ、何かやってるなって。また来たなぐらいな感じです。この方はその後、毎年お庭の紅梅の木を剪定したときに、学校に飾るように枝を持ってきてくれるようになっています。

それ以外にも、学校の先生方もいらっしゃいますけれども、授業支援については年間計画の中で計画していくものもありますけれども、授業の進捗に合わせてゲストティーチャーを招いたり、地元企業へ見学に行けるように話を進めることもあります。全て地域の方や事業所、身近な先生がたくさんいる南小学校です。

SDGsを学習している4年生が、身近な物を使ったエコづくりにチャレンジしたいという話があったので実現させた授業です。エコクラフトを趣味にされている地域の方に来校してもらって、授業をしていただきました。

グラウンド整備ですが、いい土地なんでしょうね、すごく草が生え、草原のようになります。グラウンド整備サポーターも募集してますが、できる人ができるときにと、休み時間に子供たちが勝手に草取りしていたり、放課後に親子で勝手に草取りしていたり、地域の方や卒業生も草取りしていたり、南小のグラウンドの草取りは本当に勝手にしてくれています。道具だけ所定のところに置いてあって、ここに置いてあるよと言ってあるだけなので、来たときに誰もができるようになっています。

今の校長先生が南小学校に着任したときに、学校だよりの中で、この草取り応援団を通して感じたことを記事にしてくれたのが右側の学校だよりです。題名は「自分たちの学校は自分たちでつくる」です。とても私この言葉好きで、いいなと思いました。

中庭があるんですけども、ウッドデッキの清掃ですとか、七夕のササの準備、学校のお祭りとか図

工で使用するドングリ集め、資源ごみの回収の置き場所がちょっと片づかないよねと言うと、写真にあるような回収コンテナが、おお、あるよと言って設置されたりします。道具持ってるから、行ってやるよと言って、トイレ掃除も来てくれたりとかするんです。

まだまだ紹介したい地域の応援や保護者の応援たくさんあるんですが、今日は地域の方との関わりの多い活動について話をさせていただきました。

地域の中で得意なことを披露する場であったり、南小学校という場が、子供たちと共に学ぶ場だと思っている人もいらっしゃいますし、遊ぶ場だと思っている方もいらっしゃいます。生涯学習の場に行っている方もいらっしゃいます。学校が子供だけではなく、地域の方にとっても遊びの場であったりとか、いろいろな場であったりするなと思っています。

南小学校は子供たちや保護者だけではなく、学校教育、家庭教育、社会教育、生涯学習の場として地域の方にとっても大切な学校で、地域みんなの学校です。ただ、昨今、よく不登校等の、配慮が必要な子、発達障害という話がよくニュースとかでも耳にするかと思うのですけれども、いろいろな方が出入りするので、その配慮が必要な子の情報共有はどこまでやったらいいんだろうかというところにはすごく課題があるなと思っています、実は今日夕方、学校運営協議会があるんですけれども、議題の中に不登校支援について、配慮が必要な子の支援について、本日の学校運営協議会では話をすることになっております。

地域の子供は地域で育てる。誰でもいいんです。誰かがその子のよさを認めてあげられる場であってほしいな、そんなことがこれからのコミュニティスクールには期待ができるのではないだろうか、地域住民の一人としては感じているところです。

ただ、もう1点、各市町の横串連携、よくこの場でもお話をさせていただきますけれども、行政主導で各市町の横串連携ができないと、なかなか学校教育だけで走っても無理ですし、生涯学習だけで走っても無理なところがありますので、各市町、行政がどのように横串連携を取っていくのか、横串を刺していくのか、今後の課題になっていくのではなかろうかと思います。

学校は、子供にとって絶対安心・安全な場所ではなくてはならないと思っていますけれども、学校は公共施設ですので、誰もがみんなですべて使っていないかなと思って、活動を進めています。

○委員長

熱い御発表をありがとうございました。

それでは、今の発表の質問も含めた形で、協議に入っていきたいと思います。

お二人の発表をお聞きになられて、今日は地域と学校が連携・協働した取組について実践を聞かせていただいたのですが、皆様の御意見を伺えればと思います。感想や御自身の取組とも関連させた御

意見でも構いませんので、少し自由に御意見をいただければと思います。残り20分ぐらいになりますけれども、委員の皆様からくまなく御意見いただければと思いますので、どなたからでも構いませんがいかがでしょうか。

○委員

すばらしい発表、ありがとうございました。本当に今の発表を聞いて、地域性をすごく感じられました。

資料の中にあった「夢と輝きの教育推進会」で、ダディーズ、おやじの会が出てきたのですが、県下の小中学校のPTAでも、おやじの会はあるのですが、最近なくなってくる所が多いです。というのは、父親の参加がすごく少なくなってきました。

そこで存続していただける、参加がすごく多いとは思いますが、お父さん方の参加について、何か工夫している点とか、もしあれば伺いたいなと思いました。

○委員

ダディーズの主な年間行事予定の中の一つとしては、運動会の競技の準備です。先生方は1人級外の先生がつくだけになっていて、そうすることで支援員の先生方も、担任、主任の先生方も全員子供たちに配置ができる。

先生方が、どこにボールを置くとか、手順書みたいなものを作るのですが、それを基にダディーズが設置していくのです。ボールだったり、バトンだったり、ロープだったり。

その中で、ダディーズのメンバーは準備をやりながら、絶好調の場所で写真撮れる。これ、皆さんすごいいなと言って、手伝っているのですが、グラウンドの真ん中でカメラを持っていても、誰も文句を言わないです。それは、ダディーズにどうぞって学校側も言っているし、PTAとしてもどうぞと言っているのですが、どの行事でもダディーズが参加するときには、ダディーズは絶好調の場所で、子供のビデオと写真撮影ができる。そこを目的に入ってくる方がとても多いです。

○委員

ぜひ、今度PTA関係の場でも発表していただけたら助かります。ありがとうございました。

○委員長

そのほかいかがでしょうか。

○委員

すばらしい発表ありがとうございました。聞きますと、10年ぐらいコーディネーターをやっておられるということで、実はうちの市でもコミュニティスクールをやっているんですけど、なかなかまだ実態としまして、地域の協力がそんなに全面的に得られてない実態があります。今のスライドを見ますと、かなり地域の方が協力してくれてやっている状況を伺えました。その辺で最初から地域の方が全面的に協力してくれているのか、またその点で何か苦労なされたことがあるのか。あともう1点は、地域と連携していくために、日頃心がけていることってどんなことがあるのかをお聞かせいただけたらと思います。

○委員

おっしゃるとおり、最初からこんなにうまくいっておらず、あのコーディネーターは誰だろうなというところからのスタートでした。ただ、活動を長く、息の長い活動を全て目指しております。無理をしない、絶対に無理をしない。やれる範囲でやれることをやっていこうというところで行っているので、12年務めてこれたかなと思っています。こつこつやっていったところで、やっと5年目頃から地域皆さんが、私がちょっとばたばたしてると、みんなで助けてあげようという手が入ってきて、皆さんが協力してくれるようになったかなと思っています。

本当に無理しないが一番かなと思っています。誰かが無理をして急ぎ足になると、どこかに負荷がかかって、後継も育たないですし、あれやるなら、大変だからやりたくないという人が出てきてしまうので、無理のない範囲でやるのが一番心がけていることです。

あとは、夢と輝きの教育推進会、区長さんをはじめ、シニアクラブの会長さんですとか、いわゆる地域の重鎮みたいな人たちが出てきます。でも、必ず出席した方には、全員一律に同じように話を振って、重鎮だから意見がとおるとか、そういった場にはならないようにしています。どんな小さい、例えば子供会の会長だったり、旗振りの方だったりしても、意見を言ったら、みんなに聞いてもらえる、共有できる、そういう場を心がけているので、地域の皆さんも会に出てくると、いろいろな思いの丈を話してくれるのではないかな。そこが、上手にコーディネーターする側が見つないでいくといいように。もちろん、否定的な言葉ももちろんありますが、そこはお預かりさせていただいて、後で回答する形を取って、うまく回していくところです。

○委員長

そのほかいかがでしょうか。

○委員

今日、高等学校と小学校の地域との関わりの話を聞いたわけですが、高等学校では、総合学科の高等学校であるから、今日発表していただいたような取組ができるのか、普通科高校でもできるのかどうかは気になったのが一つです。

それは、週に1時間という授業だということですけど、年間36時間。それで、企画課は計画を作るということで、1週間に1時間で生徒の移動とか、あるいは先生方の手間のかける時間の余裕といえますか、その辺が少し気になったのがもう一つです。

ですから、駿河総合高等学校でやられたことが、全科全校全ての高等学校が可能なかどうか、教えていただければと思います。

それから、小学校に、今日お話を聞きしたスクールコーディネーターがいるということは、少し私もそういう方がいらっしゃるんだということは承知していたのですが、具体的な内容はよく知らなかったです。

それで、このスクールコーディネーターの養成、育成、そういう事業としてあるのかどうか。このスクールコーディネーターが、県下全部の小学校にいるのかということ、それを教えていただきたいと思います。

○委員

まず、総合学科を強調してしまったのですが、決して総合学科だからできるわけではなくて、この総合的な探究の時間は全ての学校で取り組んでおります。各科、各学校、それぞれの学校の特色に合わせて、自分たちの学校なりが一番いい形での総合的な探究の時間を行っています。それも、県教委もかなり支援しながらやっていますので、様々な取組があります。

そして、週1時間の中でできるのかという御質問ももっともなところで、週の中に、時間割の中に入れなければいけないですが、それだけではなくて、ある程度まとめて行いたい活動がありますので、それらを両方合わせて、週に置く部分と、まとめて行う部分をうまく組み合わせながら、年間の教育課程を組んでいるところになっております。

○事務局

スクールコーディネーターが、今名前が変わっておりまして、地域学校協働活動推進員という呼び方をしていますが、そちらの養成の講座を毎年やっております。今年は、東部と西部の2か所で養成の研修を実施する予定です。

それから、県下の小中学校にどのぐらい地域学校協働本部があるかということですが、令和3年度の実績で小中学校に67%（政令市を除く）まで、本部が設置され、御発表された委員のように活動をされている学校があります。

今の件で補足をさせていただきます。資料1の第3章の（1）地域学校協働活動推進事業費予算約3千9百万円と記載されているこの部分が、今、地域家庭班長が説明をした県の事業です。これは国が積極的に主導して行っている事業で、国3分の1、県3分の1、市町が3分の1、3分の1ずつ負担して行っている事業になります。

先ほど申し上げました67%の設置率ですが、その内容については、一律に、発表された委員のような方が全部の地域にいるわけではないです。地域によってばらつきがあるのが実情です。

○委員

ありがとうございます。

○委員長

そのほかいかがでしょうか。

○委員

昨年度、静岡県社会福祉協議会主催で、学校関係、市町社協の職員向けに研修を開催しました。そのときに、今日実践発表していただいた委員から、地域と学校の連携の内容を御報告いただきました。市町の社会福祉協議会は住民主体による地域づくり実践しておりますので、これまでシニアクラブの事務局ですとか、民生委員の事務局をさせていただいた中で、地域課題がどのようなものがあって、どう地域の方々と学校とどのように連携していくかを課題としておりましたが、既に実践されておられるところで非常に驚きました。

今後は、社協がどのようにして地域の方々と連携していくかという目線を変えて、今後紹介させていただきたい事業がございます。社協が実践する地域福祉教育を表現した副読本を2年かけて作成してまいりました。

この本の中で、生涯学習とどのように連携するかも学識の先生に執筆していただきました。先ほどお話がありました、一緒になって協働していくことで、ウェルビーイングにつながっていくのかなと感じております。

また、昨年度PTA会長、今年度は子供会理事を拝命した中で感じますことは、何ゆえ本当になり手がない、役員がない、会員も撤退していく。ある地区ですと、80人いた子供会の会員が退会に

より今年20人。役員になりたくないのをやめていく現状が顕著になっています。そうすると、公民館活動の募集をかけても全然人が来ない、地域コミュニティの価値を共感しにくい状況があります。PTA会員の衰退や解散などこれは全国的に大きな全国的な課題となっております。また、この社会教育という一つのテーマで地域づくりを皆さんで目指していくのは、このような会議で皆さんと協働して、目指す社会教育の姿に向かっていけたらと思う次第です。

○委員長

そのほかいかがでしょうか。

○委員

スクールコーディネーターの発表の中で、裾野市のほかの小学校では同じような取組がなされているのでしょうか。

○委員

地域性や規模で、なかなか同じようにはいかないところが実情です。南小学校は1学年2クラスの中規模校なので、小回りが利くところもすごくいいところです。来週、これやりたいと言って実施できるところが、大規模校ですとちょっと難しいところがあるというのがありますけれども、市内でも事例発表を私のほうでさせていただいて、いいところは、いろいろな学校が採用してくださっていて、ほかの地区でも、先ほど話したダディーズと同じ組織をつくりたいとあって、昨年度、勉強に来られた方がいて、今年度発足しようかというところもありましたし、徐々に少しずつできそうなどころから広がっているなという実感はしております。

○委員

先ほどの発表を最後まで聞かせていただいて、職員室の中に地域の方がいても、先生たちはそれほど気にしないこともあったのですが、その前に、学校の会場になっている会議室が、この南小はできたのが新しいこともあるかもしれないのですが、防災用に分離管理できるところが、地域でも活用できる場になっていることも大きいのかなと思いました。

自分たちの市でも放課後子供教室をやるときに、国では学校の空き教室を使ってということも言われるのですが、なかなか子供の数が減っても特別教室や、特別支援学級をつくったりして、学校によっては空き教室はないということで、放課後子供教室をやる場所がないとか、学校行事ではないと地域の方で完全に管理していただかないと、ということを経験から言われてしまうこともあります。子供

が通っているときから学校に関わって、今のコーディネーターをやっているという中で、長い間の信頼関係があつたことかなと思いましたが、そういったところも、南小については特殊な要因が重なって、いい状態になっていると感じました。

○委員長

次に、お願いします。

○委員

コーディネーターの発表をしていただいた委員にお聞きします。この学区の特徴は、地域のコミュニティが昔からあつたところに人が移住してきて、新しい小学校をつくるようになったのか、それとも宅地化が急速に進んで、地域外から来た人たちばかりがほとんどの学区なのか、それによって地域と学校の在り方は違ってくると思います。その辺りを説明してください。

○委員

南小学校は、私が子供の頃、ベビーブームと言われているような時代の子供たちが小学生ぐらいになったときに、もともとあつた分離する前の学校はバスで行かなければならないところにあつたので、地域の方たちが、この学区に小学校が欲しいと、40年ほど前から設置が求められていた学校でした。その後、だんだん子供の数は目減りしていったんですが、南小学校ができてから、どんどん宅地化が進んでいって、地域外から人が増え、子供が増えて、今、昔からの住民が3分の1で、転入してきた住民が3分の2なんじゃないかなという学校になっています。

もともと地域が要望してできた学校でしたので、自分が南小を建てたと思っている住民がたくさんいるようなところなんです。土地の区画整理を地域で組合をつくってやったところなので、それぞれ皆さんが思い入れのある学校なのではないかなと思います。

ただ、転入してきた住民のことをシャットアウトとか、そんなことをするような人たちはいなくて、若い人たちの意見が必要だよ、これからの地域には、若い人たちがどんどん活躍できる場があつたほうがいいよねという重鎮たちが多くいるところです。

○委員

今の社会教育のシステムは、昔の社会のシステムにまだ縛られてるところがあると思います。農村社会で、職場と家が近い。専業主婦の家庭で、お父さんが働いていて、だから母親は学校の手伝いができるとか。ただ、今、コロナ禍で加速したように、非常に社会の形も働き方も変わってきたところで、そこで社会教育もそれを意識して変えていかないとならないと、お話を聞きながら思いました。

○委員長

たくさん御意見があると思うのですが、この場にいる方からは、一通り御意見いただきましたので、副委員長、オンラインでの参加ですが、御意見をお願いします。

○副委員長

どうもこんにちは。特にお二人の発表、ありがとうございました。大変示唆に富む内容で勉強になりました。

感想ですけど、最初の高校での取組の発表は、探究のことにしろ、総合学科のことにしろ、そこでの学び方は社会教育と相性がいいと思います。そこら辺が多分、社会教育がより生かせるところでしょし、社会教育がよりもっと支援できるところかなと思いました。

ウェルビーイングについて今後やっていくのですが、これは別に社会教育の問題だけではなくて、学校教育も含めた教育全体の中で考えていくことで、本県に限らず、国全体がいろいろやってきているはずですよ。

ややもすると、学校の先生方にとって、これまでの学校教育のやり方でいくと、なかなか結論というか答えの出にくいものは、すごくしんどいところがあって、またすごく仕事量が多くなる気がしてきます。

したがって、学校の中で働き方改革とかいろいろな負担がある中で、社会教育とか地域の関わりとかがより大事になってきます。それと同時に、後半に発表していただいた委員が最後におっしゃっていた、社会教育に関わる人たちの、「できることをやる」、「無理をしない」といった関わり方が、恐らく学校教育にもいい影響を与えるようになると思います。そのためにも今後、社会教育としてウェルビーイングをどう捉えていくといった、何かしら在り方を示していければいいかなと思いました。

○委員長

皆様からいろいろな意見いただけて、本当に有意義な会となりました。

私からも一言だけ。ウェルビーイングの実現とイメージとしては、今日のお二方のお話聞いて、やはりみんな幸せになっていきたいし、人や自分の住んでいる場所とつながっていることが幸せにつながると思ってるのだなと感じました。人と人はつながるという点です。

昨今のChatGPTに代表される、AIのことが出てきていて、非常に人工的なものとどう向き合うか付き合うかも私たちが直面する課題ですけど、そういう中でも基本は人間と人間がつながる。そういうところを、このウェルビーイングの実現のイメージとして、一つ持っていくべきなのではないかなと感じた次第です。

本当に今日はお二人の思いのこもった有意義な御発表、本当にありがとうございました。また、皆様からも、それに呼応した有意義な御発言いただきましたこと、厚く感謝申し上げます。

まだ御意見あるかと思えますけれども、時間が来てしまいましたので、本日の協議はこれで終了いたします。

以上をもちまして、第3回静岡県社会教育委員会を閉会いたします。本日はありがとうございました。